

## 畜産酪農技術センター(旧畜産試験場)機関評価表

畜産酪農技術センター機関評価委員会

評価項目	評価点	コメント
1 組織管理	4.2 / 5	組織改変に対応しながら、山梨県独自の試験研究を実施するための組織管理がなされている。絶えず経営革新をおこなっており、今後、さらに魅力ある機関となるように期待する。研究内容や技術の継承が必要なことから、研究職および支援部門において、若手の採用をおこなうことが望ましい。
2 事業内容及び予算配分	4.0 / 5	県の方針や生産者の要望に即した研究が実施されている。ただ、研究課題が多いので、課題の決定の際には、関係機関からの意見を基に十分な精査をおこなって欲しい。また、養豚と養鶏の研究費をできるだけ均一になるよう、バランスをとることも重要。他県の公設試問や農研機構との連携もおこなわれており、国の委託研究や補正事業にも参画するなど、競争的資金に積極的に応募している姿勢は評価できる。
3 施設の整備状況	3.4 / 5	既存の施設や機器を大切に使用していることを評価する。ただし、安全衛生や防疫上の観点から、優先順位を決めて計画的に改修や更新に取り組むことを勧める。また、分析機器についても、耐用年数を超え、メンテナンスのサポートが終了している物が多いように思える。これについても、優先順位を決めて更新をおこない、研究上支障が生じないように配慮して欲しい。
4 研究事業の成果	4.8 / 5	消費者ニーズを取り入れ、畜産物のブランド化を図るなど、研究成果が着実に生産に反映している。県内の生産現場に直結しており、センター(試験場)および生産者がWin-Winの関係になっていることを評価する。今後も、農業経営者の意見を吸い上げ、県内の畜産の維持発展に努めて欲しい。普及成果として県内のみの公表だけでなく、学会や商業誌等にも発表していることは高く評価できる。
5 普及啓発活動	4.6 / 5	甲州富士桜ポークや甲州地鶏など、成果が着実に生産に普及している。年度末の成果発表会や県で出している普及センターだよりを活用し、成果の普及に努めている姿勢は高く評価できる。こうした活動は、現場ニーズの吸い上げにも結びついており、今後も積極的な啓発活動を期待したい。
総合評価	4.6 / 5	限られた予算、人員と設備の中で、県の方針に沿って現場の利益に結びつく研究を実施し、一定以上の成果を挙げている。今後も、生産者の意見を重視した課題への取り組みが望まれる。 国や他県の公設試、大学との連携を図り、育種・繁殖・飼養・環境の幅広い分野で存在感を発揮している。今後、最先端の設備導入も視野に入れ、更なる魅力ある研究開発機関を目指して欲しい。

「注」 評価点の目安

評価	良好	やや良好	普通	やや不十分	不十分
点数	5	4	3	2	1

### 試験研究機関の処置

平成29年4月から組織再編により、新しく「畜産酪農技術センター」としてスタートし、効率的な組織管理が行える体制としました。試験研究については、生産現場及び消費者ニーズを的確に把握し、迅速な成果の普及・活用を図っていきます。また、老朽化した施設や備品については、試験内容や防疫対策の観点から計画的に整備を進めていきます。今後とも試験研究や改良増殖を通じて、本県の畜産振興に貢献していきます。

## 畜産酪農技術センター(旧酪農試験場) 機関評価表

畜産酪農技術センター機関評価委員会

評価項目	評価点	コメント
1 組織管理	4.2 / 5	少ない人員で、効率的に質の高い試験研究を、円滑に遂行できる組織運営をおこなっている点を評価。今後、旧畜産試験場との統合による連携に期待する。 草地や大動物を使つての試験研究においても、研究内容や技術の継承が必要なことから、研究職および支援部門の増員が必要である。
2 事業内容及び予算配分	4.0 / 5	第7次試験研究推進構想の内容に基づき、適切に業務がなされ、着実に成果を挙げている。ただし、研究課題に対して人員の補充を考える必要がある。また、財産収入の増加に応じ、研究予算を増額しても良いのではないか。 他県の公設試や農研機構との連携もおこなわれており、国の委託研究や補正事業にも参画するなど、競争的資金に積極的に応募している姿勢は評価できる。
3 施設の整備状況	3.6 / 5	旧畜産試験場と同様に、古い施設や設備については、優先順位を決めて順次更新することが望ましい。研究備品等も耐用年数に達している機器類が見受けられるので、同様の処置が必要である。
4 研究事業の成果	5.0 / 5	生産者および消費者両方のニーズを把握し、これに対応した研究課題を遂行し、成果を挙げていることは高く評価できる。また、技術・普及に分類される成果も多く、酪農現場に役立つ内容となっている。
5 普及啓発活動	4.8 / 5	年度末の成果発表会の他に、牧草品種登録、学会発表も積極的におこなっている。県内生産者との意見交換を積極的におこない、現場のニーズの把握に努めている姿勢を高く評価する。
総合評価	4.6 / 5	効率的に研究を実施し、多くの成果を挙げている。他県の公設試や国、大学からの信頼も厚い。研究成果の生産者への還元に着目している点は高く評価できる。今後は、生産者のみならず消費者のニーズを踏まえ、生産性や収益性に結びつく研究を実施し、山梨県の酪農を技術面でサポートする重要な機関として、さらに発展することを期待する。

「注」 評価点の目安

評価	良好	やや良好	普通	やや不十分	不十分
点数	5	4	3	2	1

### 試験研究機関の処置

平成29年4月から組織再編により、新しく「畜産酪農技術センター」としてスタートし、効率的な組織管理が行える体制としました。試験研究については、生産現場及び消費者ニーズを的確に把握し、迅速な成果の普及・活用を図っていきます。また、老朽化した施設や備品については、試験内容や防疫対策の観点から計画的に整備を進めていきます。今後とも試験研究や改良増殖を通じて、本県の畜産振興に貢献していきます。